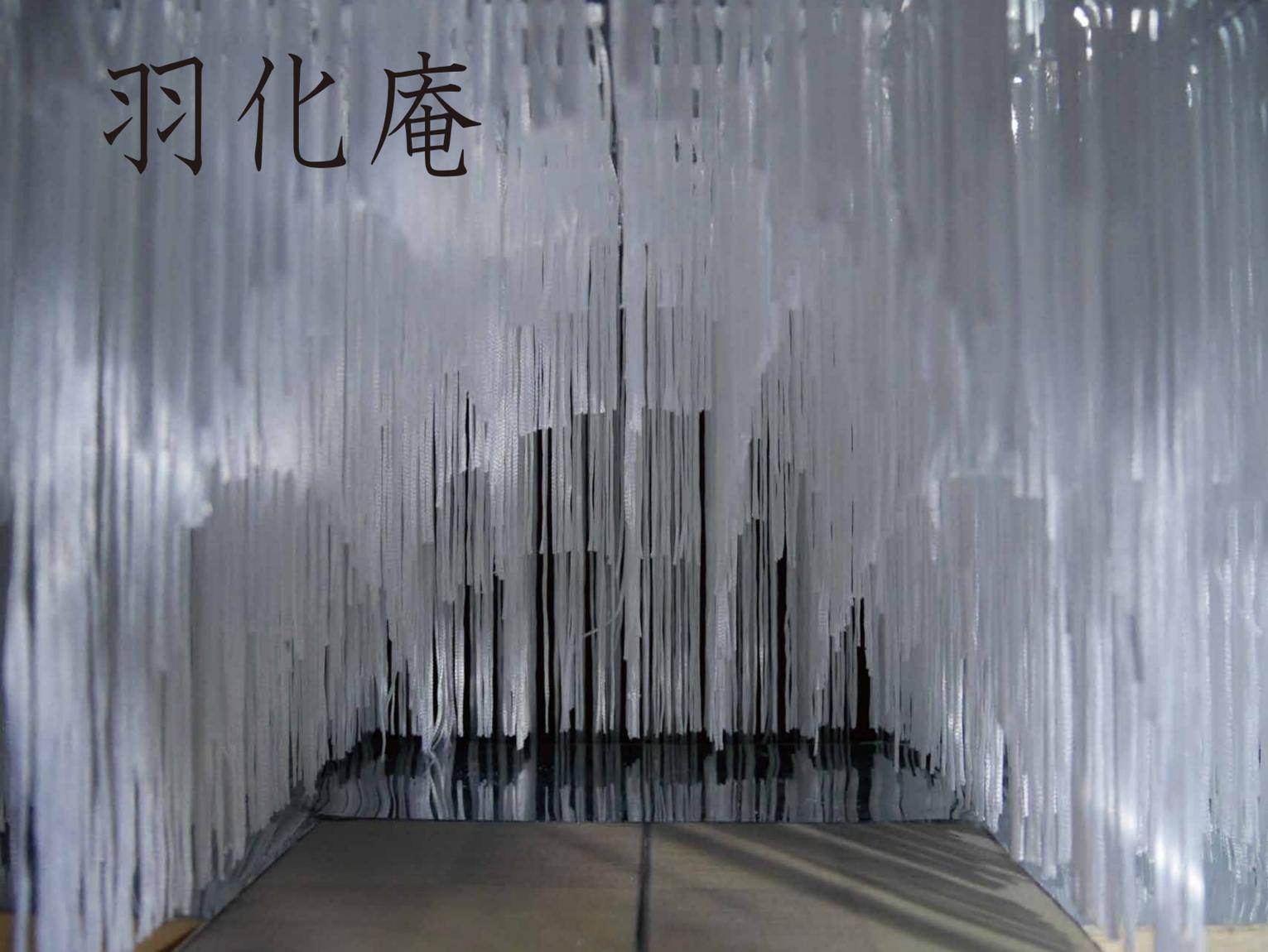


# 羽化庵



## 一羽化一

地面を這いつくばっていただけの幼虫が、蛹になり、羽化という変容を得て、大空へと羽ばたいていく。私たちは、この蛹から成虫へと羽化する過程から、華やかさを汲み取った。

茶室に入った人々の心も、羽化と同じように変容するのではないかと考えた。

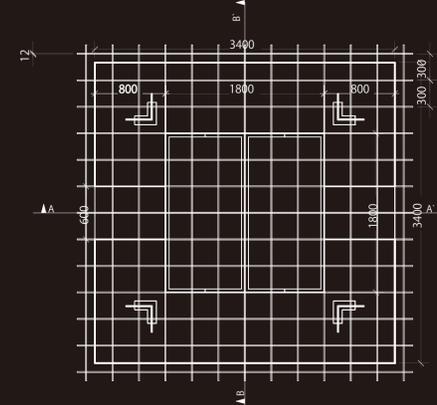
なぜ茶室というものが現代でも造られ続けているのか。それは人々が茶室に何かを求めているからである。それを私たちは「特別な空間」と考える。俗世とは別の空間、非日常の空間であり、体験する者の心に訴えかける何かを持っている。そこで特別な空間を感じとり、何かしらの心の変容をしてもらいたい。そう願いを込めてこの茶室を造った。

## 一蛹になる一

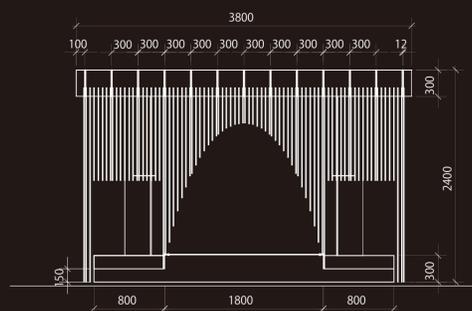
自分が蛹となり、大空へと羽ばたくための準備をする。

四角い建築だと思って入ってみれば、そこは360度糸に包まれ、まるで蛹の中にいるような感覚に陥る。

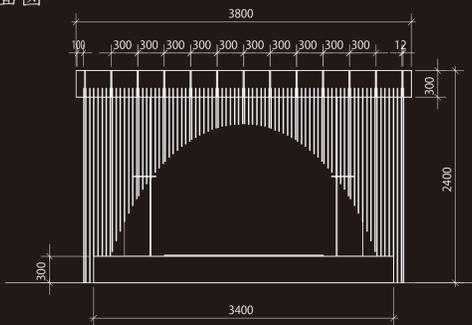
・平面図



・A-A`断面図



・B-B`断面図



## 一特別な空間を作る一

にじり口とは、入り口を小さくするという実に簡単な方法で、茶室を特別な空間にするための様々な効果が期待できる。私たちにもじり口のような、茶室を特別な空間にするための工夫をできないかと考えた。それが次の3つである。



・心の準備をするスペースをつくる  
入口の四方を囲み、一人になる空間を作った。ここで一度一人になり、心を落ち着かせることで、特別な空間に入る心の準備ができる。

・想像と実際のギャップをつくる  
外から見ているだけではなく、実際に中に入り、自分の目で、肌で、心で体験する。特別な空間を感じる事ができる。

・境界線をつくる  
床に敷かれた鏡に、上の世界が下に向かうように反映され、崖のような存在になる。外と中の世界の連続性を断ち切る境界線となる。